

ちまた

書道展 叔父最後の俳句展示

広井 千鶴子 71(倉敷市)

先日、岡山県天神山を聞きながら「正」。先日は初めてのお彼文化プラザで開かれて新見の山村で苦勞し岸を迎え、墓前で手いたシルバー書道展にながら学び、人生を前を合わせ「叔父さん出かけた。最高齢は1向きに生き抜いた。の作品、立派だった02歳で、60代以上の趣味の俳句は若い頃よ」と報告した。でも方々の作品が展示されてから続けていて、それ「あれじゃあいけん」筆遣い、字形など、ござまが見えるようだった。声がしたように思っ

今年95歳の叔父は、

この会に自作の俳句を筆でしたためて毎年出品していた。しかし、この7月に天国に旅立ってしまった。今回も出そうと意欲を燃やしていたのだが、4月から入院生活が始まり、叔父の魂のこもった清書は仕上げる事ができなかった。

その思いを家族が受け継いで、練習に書いていた書を出品した。所々汚れもあり落款印もないが、叔父の最後の作品は掛け軸に貼られ、係の方がきれいにしてくださっていた。「うそ寒し桜だより

会場風景

